

リトアニア人から最も尊敬され愛される
芸術家チュルリョーニスの作品と
彼の絵画からインスパイアされた
邦人作品を世界初演

チュルリョーニス

— 光と無限

リトアニアと日本の作曲家の作品

Čiurlionis. Light and Infinity
—Works by Lithuanian and Japanese Composers—

〔演奏作品〕

田丸彩和子:琥珀の海 チュルリョーニス 第五ソナタアレグロに触発されて(委嘱新作)

鈴木 豊乃:The Promised Door(委嘱新作)

小坂 咲子:Yard-recitative with silent butterfly -for piano solo(委嘱新作)

古永家健太:《静寂》—チュルリョーニスの絵画によせて—(委嘱新作)

豊住 竜志:“Serenity” for piano~to the Painting of M.K. Čiurlionis(委嘱新作)

M.K.チュルリョーニス:楽興の時 VL163a

プレリュード in B minor VL182a

マズルカ in A minor VL171, in E minor VL172, in G flat major VL193

プレリュード in F sharp minor Angelus Domini VL184

他

ローカス・ズボヴァス、末永 匡、谷口知聡(ピアノ)
Rokas Zubovas, Suenaga Tadashi, Taniguchi Chisato (pf)

2026.4.22 (18:30開場) (水)19:00開演 サントリーホール ブルーローズ 入場料 一般:4,000円 学生券:2,000円

チケット取扱:一般社団法人日本作曲家協議会 03-6276-1177 (土日祝休)

カンフェティ web予約:<https://confetti-web.com/> 電話予約:カンフェティチケットセンター 050-3092-0051 (受付時間 平日10:00~17:00)

主催:一般社団法人日本作曲家協議会 共催:駐リトアニア共和国大使館/リトアニア・カルチャー・インスティテュート

後援:一般社団法人日本音楽作家団体協議会(FCA) 協力:桐朋学園大学音楽学部 助成:公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

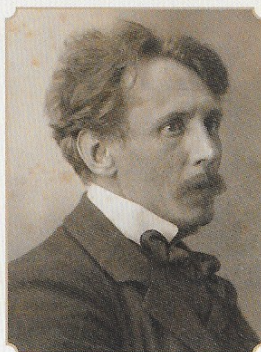
チュルリョーニス

— 光と無限

リトアニアと日本の作曲家の作品

Čiurlionis. Light and Infinity
— Works by Lithuanian and Japanese Composers —

作曲家・出演者プロフィール



ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス
(1875-1911)

作曲家・画家・思想家。リトアニアの国民的な文化の歴史において最も象徴的な人物。4歳でピアノを弾き始め7歳の時には楽譜を難なく読むようになる。ワルシャワ音楽院(1894-1899)、王立ライプツィヒ音楽院(1901-1902)で学ぶ。ライプツィヒ滞在中に絵画制作に没頭し、ワルシャワの絵画学校で学ぶようになる。短い活動期間中に、交響詩や序曲などのオーケストラ作品、弦楽四重奏、合唱曲を含む400曲を超える音楽作品に加え300作品を超える絵画を創作。

小坂咲子

東京藝術大学及び大学院修士・博士課程修了。アルヴァレスコンクール優勝、香港ハーモニカコンクール、ISCM、ACL入野記念賞、日本音楽コンクール等入選。作風は雅楽や戸外音に含まれる多種の破擦音と、明瞭に聴き取ることの限界である特殊奏法を織り交ぜた書法によっている。筆策協奏曲《華蝶乱》ブランデンブルク交響楽団再演、その他作品は愛知室内オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、マルメ交響楽団、シチリア交響楽団、パーセル室内管弦楽団等により演奏。21世紀音楽の会、アンサンブル東風、(一社)日本作曲家協議会、各会員。

古永家健太

東京音楽大学器楽専攻ピアノ演奏家コース卒業。同大学院音楽教育専攻ソルフェージュ研究領域修士課程修了。第9回東京国際ピアノコンクール一般部門第3位。第33回蓼科音楽祭他、各地の音楽祭に出演。作品に《Rétrograde》(Fl.)、《溪流 — その分岐と合流 —》(Pf.)等がある。日本作曲家協議会会員。日本ソルフェージュ研究協議会会員。作曲を萩場富美子氏に師事。

鈴木豊乃

国立音楽大学大学院修了。日本作曲家協議会会員。アーティストのコンサートやCDなどの編曲を多く手がける一方、イベントの音楽制作や作品発表も積極的に行う。楽譜や書籍などの出版物は60冊を超え、いずれも増刷を重ね人気を博している。最近では全国でピアノ指導者向けセミナーや学校講演会を行い、作曲体験の必要性や音楽の素晴らしさを伝えている。常に時代やジャンルを問わない幅広い視点での音楽活動に取り組んでいる。

谷口知聡 (pf)

桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻を卒業後、奨学助成金を得て渡仏。パリ国立高等音楽院第二課程ピアノ科を修了、現在同音楽院の第二課程室内楽科及び第三課程現代音楽科に在籍。南仏のラ・ロック＝ダンテロン国際ピアノ音楽祭やイタリアのヴェネツィア・ビエンナーレ、ハンブルクのマルタ・アルゲリッチ音楽祭など、主要国際音楽祭に招かれリサイタルなど行い、2023年のラ・フォル・ジュルネ東京では東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団と共演。2022年第15回オルレアン国際ピアノコンクールで第2位、及び「アンリ・デュティユー レジデンス-ジュヌヴィエーヴ・ジョフ」賞を受賞。また、2020年第14回現代音楽演奏コンクール「競奏XIV」で第1位を受賞。明治安田クオリティオブライフ文化財団2021年度及び2022年度海外音楽研修生、ロームミュージックファンデーション2023年度及び2024年度奨学生。

田丸彩和子

東京に生まれる。国立音楽大学楽理学科、作曲学科卒業。現音作曲新人賞、日本音楽コンクール、ブダペスト・スプリング・フェスティバル国際作曲コンクール、今日の音楽作曲賞入賞。日本交響楽振興財団作曲賞入選。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本歌曲協会、作曲家グループ〈邦楽2010〉の各会員。子供のための音楽から現代音楽まで幅広い領域で活動中。近年は邦楽器を伴った日本歌曲の創作にも意欲的に取り組んでいる。

豊住竜志

愛知県立芸術大学大学院修了。作曲を石井歓、兼田敏、岡坂慶紀の各氏に師事。2Agosto国際作曲コンクール第1位、日本音楽コンクール第3位などに入賞。2009年にテノールと合唱・管弦楽のための「Little Things」がボローニャ歌劇場管弦楽団・合唱団により初演、Rai 3にて放送された。昭和音楽大学、東京工芸大学にて後進の指導にあたり、作品はフォスターミュージックなどから出版されている。

ローカス・ズボヴァス (pf)

リトアニア出身のピアニスト。シカゴの聖ザビエル大学で教鞭を取った後、2000年からリトアニア音楽演劇アカデミーで教鞭を取っている。フリナ・アウエルプフ・コンクールとM.K.チュルリョーニス・コンクールで優勝し、ヨーロッパ、南北アメリカ、その他の地域で演奏活動を行う。妻のソナタ・デヴェイキエテ＝ズボヴィエネとのピアノデュオや、室内アンサンブルでの活動も積極的に行う。曾祖父M.K.チュルリョーニスの作品の演奏をレパートリーとし、ズボヴァスは、音楽、美術、文学を融合させたレクチャーリサイタルも開催している。リトアニア、シカゴ、チューリッヒで、D.パベルノ、E.アウアー、E.イエリン各氏に師事。

末永 匡 (pf)

桐朋学園、ベルリン芸術大学、フライブルク音楽大学、モーツァルテウム音楽院で研鑽を積み、中島和彦、E.アンドレアス、G.ミジョリー、D.クラウス、H.ライグラフの各氏に師事。国内外のオーケストラにソリストとして招かれ、中国、エジプト、ヨーロッパ各地および日本各地で演奏活動を展開。バロックから現代まで幅広く作品を取り上げ、初演や現代作品にも果敢に挑む。常に音楽を「理解すべきもの」として提示しない姿勢を信念を持って貫き、「多様性、自己との対峙、問いを立てること」を自身の音楽哲学の中核としている。また「Music Connects Us」の精神のもと、音楽の力で人と人とのつながりを生むプロジェクトも立ち上げ社会的活動にも積極的に取り組む。多様なアートとのコラボレーションを重視し表現の幅を広げている。アルバム『Intermezzo』『tragico』をリリース。